



21世紀出生児縦断調査 (平成13年出生児) に関する特別報告



21世紀出生児縦断調査(平成13年出生児)は、平成13年に生まれた子供とその保護者を対象に、1年に1回の頻度で家庭や学校のことをお聞きする調査です。過去20年間にわたってご回答いただいたデータを活用・分析することで、次の4つのことが可能性として示唆されました。

Theme A

保護者の学校とのかかわりや
子供を取り巻く人間関係が
学校へのポジティブな
心情を育てる



Theme B

体験活動の経験が
子供の自尊感情や
がまん強さを伸ばす



Theme C

先進的な理数系教育が
高校生の適切な
理系進路選択を促す



Theme D

授業料減免や給付型奨学金
の充実が学ぶ意欲のある
学生の進学を促す



Theme
A社会関係資本
×
学校適応保護者の学校とのかかわりや子供を取り巻く
人間関係が学校へのポジティブな心情を育てる

●分析内容

「社会関係資本」（人とのつながり、人間関係が生み出す力）と、「学校適応」（学校に対する心情的な肯定の度合い）との関係に着目しました。「社会関係資本」としては、小学1年生の時点の「保護者の学校関与」、「遊ぶ友だちの人数」、「遊び相手の多様性」、「祖父母や地域の人が子育てにどの程度協力をしてくれるか」ということに着目した分析を行いました。

●分析結果

各種の「社会関係資本」は、子供の「学校適応」の度合いと関連することが明らかになりました。保護者の学校関与を高める取組や、放課後等に子供たちが多様な相手と交流できる活動の場を提供することが重要である可能性が示唆されました。

Theme
B体験活動
×
非認知能力等体験活動の経験が子供の自尊感情や
がまん強さを伸ばす

●分析内容

高校生世代～成人期の非認知能力等（自尊感情、精神的回復力、がまん強さ、精神的健康）について、小学6年生時の「体験活動」（自然体験、社会体験、文化的体験）の経験・機会との関連性に着目し、分析を行いました。

●分析結果

各種の体験活動を経験することの非認知能力等に関する効果が、多くの点でプラスであることが明らかになりました。小学生に対し意図的・計画的に体験活動の機会を充実させていくことで、子供の非認知能力等の向上を図っていくことができる可能性があることが示されました。

Theme
CSSH
×
理系進路選択先進的な理数系教育が高校生の
適切な理系進路選択を促す

●分析内容

文部科学省では、将来の国際的な科学技術人材を育成するため、先進的な理数系教育を実施する高等学校等をスーパーサイエンスハイスクール（SSH）として指定しています。SSH指定校での取組等が生徒の適切な理系進路選択を促す効果がみられるか分析を行いました。

●分析結果

中学校段階での学力水準や進学意欲等を考慮した分析を行った結果、SSH指定校に進学・在籍することが理系進路選択に対して効果があるという結果が得られました。学校教育に関する施策を通じて個々人の適切な理系進路選択を促していくことができる可能性が示唆されました。

Theme
D修学支援新制度
×
大学等への進学授業料減免や給付型奨学金の充実が
学ぶ意欲のある学生の進学を促す

●分析内容

修学支援新制度は、大学・短大・高等専門学校・専門学校といった高等教育機関に在籍する低所得世帯の学生を対象に、授業料減免と給付型奨学金の支給を併せて実施する制度として創設されました。本報告では、修学支援新制度の創設が高等教育進学に与えた影響を分析しました。

●分析結果

修学支援新制度の対象となったグループのほうが、高等教育機関への進学率が高いという結果が得られました。同制度は、学びのセーフティネット構築に資する施策であることが確かめられたと考えられます。また、奨学金等に関する学習を通して、各種支援を認知することで、高等教育機関への進学につながった可能性が示唆される結果も得られました。

